

エジプトの文化財保存修復・管理の学際的研究

研究代表者 近藤 二郎
(文学学術院 教授)

1. 研究課題

エジプト・アラブ共和国における古代エジプトの文化財の保存修復・管理の問題をエジプト現地において、国際協力のもとに実践すること目的としている。具体的には科研費の助成を受けたエジプト・ルクソール西岸アル＝コーカ地区における岩窟墓の保存・修復、カイロ近郊アル＝ギーザ地区のクフ王の第2の太陽の船などの作業を中心として展開している。

2. 主な研究成果

2017年度においては、エジプト・アラブ共和国において、いくつかのフィールド調査を実施した。主要なものでは、2016年度と同様、カイロ近郊のアル＝ギーザ台地において、クフ王の第2の太陽の船の復元調査、ルクソール西岸アル＝コーカ地区岩窟墓調査、サッカラにおける考古学調査、ダハシュール北遺跡の発掘調査などを実施した。

クフ王の第2の太陽の船の調査では、2016年度と同様にピット内の船の部材の位置測定、取り上げ作業、取り上げ部材の保存・修復作業、取り上げ部材の図面化作業などを継続して実施した。長さの長い大型部材の取り上げ作業を実施することができた。部材の保存修復・強化作業などは、これまで継続して作業を実施してきたことで、作業の効率化や問題点の認識などがエジプト人作業員・修復家などにも共有されるようになり作業は円滑に実施された。

2017年度も、科学研究費・基盤研究(A)海外学術・研究課題「エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究」、研究課題番号:15H02610の助成を受け、ルクソール西岸アル＝コーカ地区で、2017年12月～2018年1月に、さらには2018年3月の2回にわたり調査を実施することができた。当該地区には、第18王朝アメンヘテプ3世治世末期の高官ウセルハトの墓(TT47)の大規模な前庭部を中心として、数多くの岩窟墓が存在している。しかしながら厚い堆積砂礫に覆われていたため、未発見の岩窟墓が存在していることが想定された。これまでの調査によって、ウセルハト墓の前庭部の南側からKHT01とKHT02(コンスウエムヘブ墓)が、そして前庭部北東部からKHT03(コンスウ墓)の3基の岩窟墓を新たに発見することができ、従来の当該地区における岩窟墓の立地に関して新知見を得ることができた。2017年度の調査によって、さらにKHT02(コンスウエムヘブ墓)前庭部の南側とTT47(ウセルハト墓)の前室南側上部の2か所において、新たな岩窟墓の存在を確信する箇所を確認することができた。これら2か所には、周辺の岩窟墓の状況から、いずれも第18王朝トトメス4世時代に属する岩窟墓の存在が予想される。そのため今後の調査により、この地区における岩窟墓の造営の変遷が一層明確になることが期待される。

2017年度には、KHT02(コンスウエムヘブ墓)を中心として、岩盤工学の専門家と壁画の修復家の協力を受け、岩窟墓内部の壁面の保存修復作業を重点的に実施し、大きな成果をあげることができた。この結果、今後の岩盤脆弱で発掘作業が困難な部分の調査に対する目途を立てることを可能にした点でも意義は大きいと考えられる。

サッカラの新王国時代の調査では、斜面に厚く堆積する砂礫の除去作業が困難を極めたが、3次元計測などで遺構や遺物の測量・記録作業は効率よく実施することができた。ダハシュール北遺跡では、これまで遺跡で発見された木棺の修復作業の点検を行い木棺修復の問題点について検討した。

3. 共同研究者

吉村作治 (東日本国際大学・学長)
西本真一 (日本工業大学・教授)
馬場匡浩 (早稲田大学高等研究所・准教授)
中井 泉 (東京理科大学・教授)
前川佳文 (東京文化財研究所・研究員)
河合 望 (金沢大学・准教授)

4. 研究業績

4.1 学術論文

近藤二郎「エジプト、アル=コーカ地区ウセルハト墓 (TT 47) 出土の葬送用コーンについて」『二十一世紀考古学の現在』(山本暉久先生古稀記念論集)、山本暉久編、六一書房、663-669頁、2017年4月、
近藤二郎「ネクロポリス・テーベの考古学の現状と課題」『季刊・考古学』141号、79-82頁、2017年11月
近藤二郎「古代エジプトのピラミッド」『世界の眼でみる古墳文化』国立歴史民俗博物館、30-33頁、2018年3月
近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合望・高橋寿光
「第10次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」『エジプト学研究』24号、11-35頁
2018年3月

4.2 総説・著書

近藤二郎「エジプトの宗教」月本昭男(編)『宗教の誕生』133-165頁、山川出版社、2017年8月

4.3 招待講演

KONDO, Jiro

“The Tomb of Amenhotep III (KV 22) and KV A in the Western Valley of the Kings”,
Valley of the Kings: 200 years of discoveries, research, and preservation, Basel
スイス・バーゼル大学 (2017年10月)

近藤二郎「ネクロポリス・テーベ研究の地平—エジプト・ルクソール岩窟墓プロジェクト」
早稲田大学考古学会、2017年12月、早稲田大学戸山キャンパス

4.4 学会発表

近藤二郎「ルクソール西岸、アル=コーカ地区出土の葬送用コーンについて」日本オリエント

学会 59 回大会、2017 年 10 月、東京大学本郷キャンパス
近藤二郎「アル=コーカ地区出土の葬送用コーン—エジプト、アル=コーカ地区第10次
(2016-17年) —2017年3月、日本西アジア考古学会、古代オリエント博物館、2018年3月

5. 研究活動の課題と展望

エジプト・アラブ共和国における文化財の保存修復および管理の問題については、従来の形にはまった画一的な考え方ではなく、新たな方法論やコンセプトの導入が近年、急速に議論の対象となっている。私たちの調査対象地域であるルクソール西岸アル=コーカ地区は、数多くの新王国時代の岩窟墓の存在する地域であるが、岩窟墓の造営されている岩盤は、質的に極めて脆弱であり、しばしば発掘調査が困難な点が多い。そのため、調査においては積極的に岩盤工学や保存修復、保存科学などの専門家の協力を得て、安全な環境を維持しつつ、発掘作業を積極的に取り込んでいく。

発掘調査をするだけでなく、今後の遺跡の保存と活用を崩十分考慮していくために、エジプト考古省当局と常に密接な連携・協議をおこなうことで、遺跡の保存・修復、および安全管理などにおいても十分に取り組んでいきたい。そのために、遺跡周囲の砂礫の崩落を防ぐための石積みの構築、夜間の管理のための照明施設の整備なども調査研究と併行して実施していくことが求められるであろう。